

意見書（案）第9号

都立夜間定時制高校の廃止計画を見直し生徒募集の継続を求める意見書

上記の意見書（案）を別紙のとおり提出する。

令和7年3月27日

三鷹市議会議長 伊 藤 俊 明 様

提出者	三鷹市議会議員	前 田 ま い
賛成者	〃	野 村 羊 子

都立夜間定時制高校の廃止計画を見直し生徒募集の継続を求める意見書

東京都教育委員会は、都立高校改革推進計画に基づき、小山台、雪谷、江北、立川の4校の都立高校夜間定時制課程を廃止する方針を2016年に決定した。雪谷、江北両校の夜間定時制は廃止されたが、定時制の存続を求める卒業生や都民の運動が続けられる中、立川、小山台両校については募集を継続してきた。

しかし、東京都教育委員会は、昨年、都立高校におけるチャレンジサポートプランの中で、困難を抱える生徒の受入れ環境の充実のためにチャレンジスクールを整備し、2025年度の立川高校募集停止、2026年度の小山台高校募集停止に加えて、新たに桜町高校、大山高校、北豊島工科高校、蔵前工科高校、葛飾商業高校の5校の夜間定時制の2026年度からの募集停止を決めた。

立川高校定時制には、都内最大規模の140人の生徒が在籍する。募集停止により、近くに新設される「チャレンジスクール」立川緑高校（3部制の定時制）には、2月7日時点で定員170人のところ440人の応募があり、応募倍率は約2.5倍となっている。270人の不合格者が出て、学ぶ場を奪われかねない事態となっている。

東京都教育委員会は、廃止の理由に、小規模化によって学習環境に課題があることを挙げている。しかし、夜間定時制は、不登校経験者、高校中退者、外国につながる生徒、夜間中学卒業生など、多様な困難や事情を抱える生徒の居場所となっている。少人数だからこそ、一人一人に合わせた学び直しと支援ができる場となっている。文部科学省ワーキンググループの議論においても、定時制高校は、従来からの勤労青年のための教育機関としての役割だけでなく多様な学習ニーズへの受皿であることが強調され、学び直しの機会提供など、困難を抱える生徒の自立支援への対応が求められている。

よって、本市議会は、東京都教育委員会に対し、都立高校夜間定時制課程の拙速な廃止計画を見直し、誰一人取り残さない教育環境を整備するよう下記の事項を要請する。

記

- 1 拙速な都立高校夜間定時制課程の廃止計画を見直し、チャレンジスクールや通信制など、他の学習環境の整備と併せて、多様な学習ニーズの受皿として、夜間定時制における学びを保障すること。
- 2 特に立川高校夜間定時制の2025年度募集停止を撤回し、行き場をなくす生徒を生まないよう緊急募集などの措置を講じること。

上記、地方自治法第99条の規定により、意見書を提出する。

令和7年3月27日

三鷹市議会議長 伊藤俊明